

# 親と家族を支える

## ～「育てにくさ」を感じる子育てへの支援～

子どもの育ち・発達には個人差がありますが「落ち着きがなく、衝動的な行動をとってしまう」「人間関係を築くのが苦手」「すぐに癇癪を起こす」など、育てにくさを感じる子育ては、親にとって大きな心理的負担を伴います。周囲の理解と適切な援助がなければ、つらいだけの子育てになり、親・家族は孤立へと追い込まれていくばかりです。

子どもの思いを共有しながら、親の気持ちに寄り添い、支えていくために私たちにできることは…

「子どもの精神科臨床では、子どもを応援するだけではなく、親のこれまでの行為を労い、その思いを支え、敬意を表することが大切である。外来で出会う子どもたちの親は、戸惑い、哀しみ、悩み、それでも前を向いて、僕と向き合ってくれる。これから幾多の困難があろうとも、その先に、必ず笑顔はある。」

著書『僕の児童精神科外来の覚書』より



たなか やすお  
講師 田中 康雄さん

(精神科医、北海道大学名誉教授、  
こころとそだちのクリニックむすびめ院長)

【日時】 **2022年11月3日(木・祝)**

**10時～12時**

【申込方法】 **申込×切 11月1日**

申込および参加にはインターネット環境が必要です。

下記のいずれかの方法でお申し込みください。

【メール】

oki2022kodomo@gmail.com

- 1.名前 2.希望講演会名 3.電話番号  
4.お住まいの市町村 5.職業(所属)をご記入ください。



【Google フォーム】

QRコードよりお申し込みください→



<専門> 児童思春期精神医学

<略歴> 国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部児童期精神保健研究室長、北海道大学大学院教育学研究院教授を経て2012年「こころとそだちのクリニックむすびめ」院長。現在に至る。

<著書>『僕の児童精神科外来の覚書 子どもと親とともに考え、悩み、実践していること』(日本評論社 2022)『発達障害』だけで子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する』(SB 新書 2019)『ADHD とともに生きる人たちへ 医療からみた「生きづらさ」と支援』(金子書房 2019)他多数

問合せ先:おきなわCAPセンター(平日:9時~17時)

電話: 070-6591-7159

# 子ども虐待とDV

## ～家族に起きていること～

家庭内で起こる暴力—子どもへの虐待とDV—は、複雑に絡み合う問題であると同時に、家庭という密室で起こることから、介入の難しさが大きな課題です。DVと混然一体となって起こる子ども虐待に対応するには、その背景にある家族の中の力関係への視点と知識が欠かせません。

「味方になることこそ最大の援助」「被害者を真に支援・ケアするためには、加害者へのアプローチは必須」と語る信田さよ子さんに、カウンセリングの現場から見てきた被害者支援の在り方と、子ども虐待対応に欠かせない視点についてお話しいたします。

2022年11月27日(日) 午後2時～4時

のぶた こ  
講師 信田 さよ子さん

(原宿カウンセリングセンター顧問、日本公認心理師協会会長)



### 【申込方法】 申込〆切 11月25日

申込および参加にはインターネット環境が必要です。  
下記のいずれかの方法でお申込みください。

#### 【メール】

oki2022kodomo@gmail.com

1. 名前 2. 希望講演会名 3. 電話番号  
4. お住まいの市町村 5. 職業(所属)をご記入ください。



#### 【Google フォーム】

QRコードよりお申し込みください→



問合せ先: おきなわCAPセンター(平日: 9時～17時)

電話: 070-6591-7159

<略歴>お茶の水女子大学大学院修士課程修了。駒木野病院勤務等を経て1995年原宿カウンセリングセンター設立、2021年5月で所長を引退し現在は顧問。アディクション、摂食障害、ひきこもりの本人とその家族、DV、子ども虐待、ハラスメントや性暴力の加害者・被害者などのカウンセリングを行ってきた。現在日本臨床心理士会理事、日本公認心理師協会会長をつとめる。

<著書>『アディクションアプローチ』『DVと虐待』『加害者は変わるか』『家族と国家は共謀する』など多数。最新著は『アダルト・チルドレン』(学芸みらい社、2021)『言葉を失ったあとで』(ちくま書房、2021)



# 子どもたちの性と生

## ～産婦人科の現場から～

「どこまで教えてほしいの?」「興味本位で性行動をしたら困る…」そんな不安からか、子どもたちに性教育が十分になされていない現状があります。35年に渡り、産婦人科医として「性と生」に向き合ってきた河野美代子さんは、長年の経験から「知れば知るほど慎重になる」と語ります。知識がないために、性被害を受けても誰にも話せず、一人で苦しみ、孤立させられている子も大勢います。

子どもたちに必要なことは、自分のからだを知り、自分を大切にするための適切な情報です。

性暴力被害の現状、デジタル性暴力への対応、子どもを守るためにおとなができることなど、幅広くお話いただきます。性暴力・性虐待から子どもを守るために私たちにできることは何か、一緒に考えてみませんか。

### 子どもたちが豊かな人生を送るために 大切な人権と命を守るために

【日時】

2022年**12月18日(日)**

**14時～16時**

【申込方法】 **申込×切** 12月16日

申込および参加にはインターネット環境が必要です。  
下記のいずれかの方法でお申込みください。

【メール】

oki2022kodomo@gmail.com

1.名前 2.希望講演会名 3.電話番号  
4.お住まいの市町村 5.職業(所属)をご記入ください。



【Google フォーム】

QRコードよりお申し込みください→



問合せ先:おきなわCAPセンター(平日:9時～17時)

電話: **070-6591-7159**



講師

このみよこ  
**河野 美代子**さん

(産婦人科医、河野産婦人科クリニック理事長、  
NPO 法人性暴力被害者サポートひろしま理事)

<略歴>1990年広島市に河野産婦人科クリニック開業。河野セクシャリティー医学研究所所長。ボランティア団体「広島エイズダイアル」代表。NPO 法人性暴力被害者サポートひろしま理事。特別養子縁組あっせん事業者。休診日には、性教育の講演で全国に飛ぶなど、執筆や講演に幅広い活動をしている。日本思春期学会評議員。

<著書>『新版さらば悲しみの性』(集英社1999)『ティーンズボディQ&A』(東山書房1999)『新版SEX&ourBODY』(NHK出版2005)『河野美代子の更年期ダイアリー』(高文研2006)『産婦人科の窓口から』(十月舎2005)『続・いま生きる底力を子どもたちに』(十月舎2008)他多数。